

第5学年1組 家庭科学習指導案

【日時】令和2年11月26日(木) 14:30~15:15 【場所】家庭科室 【指導者】前田 寧々

本授業の主張点

本授業では、習得場面で学んだことをどのように生かすことができるか、パフォーマンス課題に取り組むことにより深い理解を得るように構想し、最終的には家庭実践へつないでいきます。「学校を豊かにする布製品を作ろう」という製作上の課題の解決に向けて、意見を交流しながら製作計画を立てようと試行錯誤し思考を深める児童の姿を目指します。

1 題材名 ミシンにトライ！

2 題材の構想

(1) 題材について

本題材は「生活を豊かにするための布を用いた製作」を取り扱う。子どもたちの周りの衣生活を見てみると、布製品は身近なものであり、生活を便利にしたり、彩りを与えたりしており、児童もそのよさに自然と気付いている。また、児童は入学時から手作りのバックや袋を使っていたり、マスクを親子で作ったりと手作りのよさを実感しており、既製品にはないよさを感じる機会も多い。簡単に物が手に入る時代ではあるが、身の回りにある布で作られた物に目を向け、布のよさや特徴に気付かせ、「自分が考えて作った、自分しか持っていない」布製品を作る経験は、家族の生活を楽しく豊かにする布製品を作る意欲や喜びを味わわせることができる。また、生活をよりよく工夫しようとするにつなげる価値ある活動と考える。さらに、この題材では、生活を豊かにする布を用いた製作について、課題を設定し、製作に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、製作計画を考え、製作を工夫することができるようにすることをねらいとしている。家庭科の学習では、生活の中から問題を見いだして、課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど課題を解決する力が求められている。児童は前期の学習で課題を設定し、基礎的な手縫いの学習の知識や技能を生かして、課題の解決のため、学校や家庭で役に立つ布製品を作った経験があり、今回のミシンの題材においても、その経験を生かすことができると考える。また、製作を繰り返しながら、評価・改善を行うことで、課題の解決に迫ることができると思う。布を用いた製作は、生活に役立つばかりではなく、身近な人との関わりを深めたり、生活文化への関心を高めたりすることにつながり、視点を広げながら生活をよりよく工夫するという力の育成にも適した題材と考える。

(2) 児童について

本学級の児童は、4月から始まった家庭科の学習に高い関心をもって取り組んでいる。アンケート調査では、家庭科が好きだと答えた児童の割合は94% (33名) と多い。針と糸を使って布製品を製作することを「楽しい」「どちらかといえば楽しい」と好意的に感じている児童は84%いる。しかし、「どちらかと言えばきらい」11% (4名)、「きらい」と答えた児童が5% (2名) おり、「思ったことがうまくできない」と苦手意識を感じている児童もいる。手縫いの学習では、学んだことを生かすことができるかを試すため、「学校に役立つものを作ろう」という共通の課題に取り組み、グループで製作を計画し、実践を行った。校長先生のパソコンカバーや、職員室の先生方のためのコースター、学年掲示板を明るくする看板や飾りなど様々なものを考え製作を行っていた。生活をよりよくしようと工夫する姿は見られたが、製作に見通しをもち、製作計画を立てることはまだ不十分であった。

手縫いの学習を生かして、夏休みには親子でマスクを作る活動を行い、手縫いの楽しさを改めて感じている児童も多かった。しかしマスク以外で家庭で布製品を製作したと答えた児童は54%と半数程度に留まっており、調理の実習後は97% (34名) の児童が家庭での実践を行ったのに比べて、製作は家庭実践へとはつながりにくい現状がある。

(3) 指導について

学校での学びを家庭実践へつなぎ、生活をよりよくしようと工夫する力を育むため、知識・技能を習得する場面と、知識・技能を活用する場面の2つに分け、さらに活用する場面を、児童が共通の場面の課題を解決する場面(活用場面①)と、児童が家庭の課題を解決する場面(活用場面②)の2つに分けて設定し、3ステップで題材を組み立てる。活用場面①を設けているのは、習得場面で身に付けた知識・技能を使うことができるように思考を深めるためであり、共通の課題にしているのは同じ土俵で意見の交流ができると思ったためである。指導においては、まず1時目に生活を見つめ、本題材の課題を設定する。その課題の解決に向け、まず知識・技能を習得する場面においてランチョンマットの製作を行い、ミシン縫いの基礎を学ぶ。本時は活用場面①にあたり、習得場面で得た知識・技能を使い、パフォーマンス課題の解決策を考えることができるかを試

す場とする。手縫いの題材では、身に付けた知識・技能を生かしてパフォーマンス課題を解決することに初めて取り組んだ。今回は手縫いで用いたフェルトに比べて、布は取り扱いが難しく、見通しをもち、製作計画を立てることに悩むことが予想される。そこで今回は試しの製作を活動に盛り込み、児童が見通しをもって製作計画が立てられるようにする。

3 題材の目標

衣生活について問題を見いだして、家庭生活を豊かにする布製品を作るという課題を設定し、裁縫の基礎的な知識・技能を活用して、解決策を考え、実践・評価・改善を繰り返すことを通して、生活をよりよくしようと工夫することができる。

4 題材の評価規準

ア 布の性質やミシンの仕組み及び使い方、製作に必要な事柄を理解しているとともに、適切にできる。

【知識・技能】

イ 生活を豊かにする布製品について、問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして、課題を解決する力を身に付けている。

【思考・判断・表現】

ウ 家族の一員として生活をよりよくしようと、生活を豊かにする布製品について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し実践しようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

5 本時の指導（5/13）

(1) 目標

学校生活を豊かにする布製品について、形や大きさを具体的にイメージし、丈夫さや美しさに気をつけ、目的に応じた縫い方や縫う順番などを考えながら製作計画を立てることができる。

(2) 評価規準

イ 「学習したことを生かしながら、学校生活を豊かにする布製品を作る」という課題に対して、製作の手順や気をつける点など製作計画を考え、工夫している。

【思考・判断・表現】

(3) 本時の展開

過程	学習活動と児童の反応 ()	教師の働きかけと形成的評価 (◆)
み つ め る	1 パフォーマンス課題を確認し、本時の学習の流れをつかむ。(2分) 2 製作計画を立てる上で必要なことを確認する。(5分) ・型紙を作ったら、どこから縫うかを考えないといけないな。 ・丈夫さを考えて、計画を立てなくては。	1-(1) パフォーマンス課題を提示し、前回までに身に付けた知識や技能を使って、課題の解決に取り組むことを確認する。 1-(2) 知識や技能は「家庭科の窓」を用いながら、分類しておき、児童が見方・考え方を意識できるような場作りを行う。 2-(1) 製作計画を立てる際に何が大切なのかを問いかける。 2-(2) 本時はどんな形・大きさにするのか、どんなふうにと、どこから縫うか、丈夫さ、美しさをどう意識するのかなどを中心に計画を考えるよう促す。 2-(3) 本時は型紙を作り、不織布を布に見立て、試し作りを行いながら、製作計画を立てていくことを確認する。
	「学校生活を豊かにする布製品を作ろう」というパフォーマンス課題を解決する計画を立てよう	
さ ぐ る / ふ か め る	3 製作計画をたてる。(28分) ・型紙はできあがりの大きで作るから、ウォールポケットの土台とポケットのそのままの大きで作るといいのかな？ ・試し作りをしてみると、タペストリーの棒を入れるところは、思ったより大きめにぬいしろをとらないと入らないのが分かったよ。 ・ガーランドの縫いしろは何cmがいいのかな。細い方が美しく仕上がりそう。 ・トランプ入れは、ランチョンマットを折りたたんで、端を縫うとできそう。端は三つ折りをすると、きれいに仕上がりそう。 ・カーテンタッセルは、二つ折りをして、中に入れて縫うといいとアドバイスをもらったよ。 ・ブックカバーの本をはさむところがうまくいかな。みんなにアドバイスをもらおう。 →折り返しの上下を縫うと本をはさみこめるよ。 →中を縫ってひっくり返してみよう。	3-(1) 製作計画を立てるとき、不織布を用いて試し作りを行うことで、見通しをもたせやすくする。 3-(2) ランチョンマットを準備し、変形させたり、組み合わせたりして、製作計画を立てる際の思考の手助けとする。 3-(3) 手順で悩む児童には、製作計画の見本や製作見本を提示する。 ◆身に付けた知識や技能を生かして、布製品の型紙を作り、試し作りを行いながら製作の見通しをもつことができる。(ワークシート・観察)【思考・判断・表現】 B 見通しをもつことができる。 C 見通しをもつことができない。 →ランチョンマットの製作手順を示し、共通点や相違点を示しながら、助言を行う。
い か す	4 まとめる (7分) 5 次時への見通しをもつ (3分)	3-(4) 製作計画を立てる上で、イメージしたものを必要な形や大きさに具体的にする方法、型紙の作り方、縫い方の手順、丈夫に美しく仕上げる方法、端の始末の仕方など困った点や迷った点、分からなかった点などが生じた場合は、随時取り上げ、クラス全体に問いかける、計画を練り直す視点を示す。 4 製作計画を立てる際に重視したことを確認し、自分たちの製作計画に生かされているか、次回からの製作に生かしていくことを確認する。 5 次回の学習の流れを伝える。

--	--	--